

北九州市エコタウンセンター 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月15日(火) 14:00~16:00
- 2 場所 AIMビル 313会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 松本構成員(座長)、泉構成員、則松構成員、
渡部構成員、石本構成員
(事務局) 環境局サーキュラーエコノミー推進課長、
企業支援係長

4 会議内容

- 構成員の紹介及び互選により座長を選出
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 応募団体からの提案説明及び構成員による質疑
- 検討会としての評価レベル(審査結果)の決定
- 評価レベル及び総合的な所見を市へ報告

5 応募団体からの提案説明後の主な質疑

- (構成員) 市外からの見学者が、一番困るのが昼食場所である。提案書には、イベント時の飲食についての記載があるが、通常の見学時の飲食スペースについて、どのようにしていきたい等の思いはあるか。
- (応募団体) 昼食場所については市とも調整中だが、現状では中庭にテーブルとベンチを用意しており、持ち込んだものをそこで食べて頂くというやり方を取っている。そのほか、近隣の響灘ビオトープで実施しているキッチンカーのイベントをエコタウンセンターでも実施するなど検討し、今後も利用者の困りごとを解決していくつもりである。
- (構成員) 現状の工場見学コースには、服のリサイクルが入っていないが、今後、見学コースに追加するなどの計画があるのか。
- (応募団体) 古着のリサイクルについては、エコタウンセンターに回収ボックスを設置しており、市民ニーズが高いことから、今回の提案事業で、資源ごみ回収キャンペーンを新たに実施する予定である。
- (構成員) せっかく古着のリサイクル工場が近くにあるため、単に古着を持っていくだけのイベントではなく、合わせて工場見学もできるなどの取組があるとよいと思う。
- (応募団体) 頂いた意見を踏まえて検討していく。リサイクル工場の受入れ体制が整っていないため現状では受入れが難しいところもあるが、受入れ体制が整い次第、工場側と交渉していきたい。また、イベントでは、ただ古着を回収するだけではなく、リユース講座などを実施する予定である。
- (構成員) 提案書では、リモート工場見学なども推進するとあるが、今後の工場見学は、デジタルとリアルどちらを重点的に進めていくつもりか。
- (応募団体) 遠方の方には、北九州まで来るのは難しいこともあるため、リモート

- 見学で対応していく予定である。見学者の幅広いニーズに応じて、リモートとリアルどちらも進めていく。
- (構成員) 見学者数10万人という目標は、オンライン見学者も含まれるという認識でよいか。市の仕様もそれでよいか。
- (応募団体) オンライン見学も含めた数字である。
- (北九州市) ご認識の通りである。
- (構成員) 海外からの見学者への対応について、韓国語への対応は記載されているが、英語対応についてはどのように考えているか。
- (応募団体) 韓国語は、日常会話程度が行えるスタッフを有しているが、英語には現状で対応できていない。今後、スタッフの習得を進めていくと共に、外国人材の採用を検討している。
- (構成員) カーボニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブの統合化について取り組むとのことだが、具体的な取組内容を教えてほしい。
- (応募団体) 専門的なノウハウを有する団体との連携を図っていきたい。具体的には、例えば、グリーンパークや響灘ビオトープなどと連携してスタンプリーを実施することで、響灘地区の魅力を伝えていくなどの取組みを検討している。
- (構成員) 収支計画について、人件費が高騰していく中、施設運営においては経費削減を考える必要があると思うが、具体的な経費削減をどのように取り組んでいくか。
- (応募団体) 光熱費などは、使っていないところの電気を消すなどの節約できるところは節約を行っている。また、施設内の草刈りなど、外注せずに極力内製化することで経費を抑えている。そのような細かい取組みを継続して実施していくつもりである。

6 採点後の各構成員の評価・意見

- (構成員) 人件費など様々なものが高騰する中、独自の提案事業にも積極的にトライしていく姿勢は素晴らしいと思う。また、企業人や小中学校など多岐に渡る見学者に対して、それぞれどのように対応していくかなどについて具体的な提案が多くあり、素晴らしいと感じた。
- (構成員) 財務的にしっかりと運営がなされており、来期に向けての提案を見ても、より良い運営を行うための工夫や様々なことに挑戦していくという力強い意志を感じた。
- (構成員) 指定管理という視点で見ると充分であると感じた。エコタウン企業や社会情勢が変わる中で、センターの運営についても少し変化があると良いと感じた。例えば、食事場所や工場見学先についてもアップデートする必要性を感じた。
- (構成員) これから海外に向けて情報を発信していくことを考えると、韓国語だけでなく、英語への対応が出来るとより良いと思う。また、サーキュラーエコノミー×カーボニュートラル×ネイチャーポジティブを総合的に学べる取組みにトライするのは素晴らしいが、提案内容をもう少し踏み込んだものにするのが良かったと思う。

- (構 成 員) 長年、指定管理をされている団体ということで、安定した管理が出来るというメリットがある一方で、保守的になりがちなデメリットも感じた。何かもう一歩踏み込んだ新しいチャレンジをしてもらえば、より良い形になると感じた。
- (事 務 局) 施設所管課として補足する。ご意見に出た昼食スペースや工場見学先のアップデートについては、提案者からは、現状で具体的な回答ができなかったところもあるが、市としても課題と認識しており、指定管理者と議論を始めたところであり、今後、しっかり対応して行きたい。また、英語を含めた多言語対応やサーキュラーエコノミー、カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブについても、展示コンテンツのリニューアルを検討しており、指定管理の次のステップとして、市としても積極的に取り組んでいく予定である。

7 検討会としての評価レベル決定

審査項目ごとに、各構成員の評価レベルの平均をベースに検討会としての評価レベル（審査結果）決定した。

- 適 性 (1) 管理運営の理念 4点
- (2) 人的・財政基盤 4点
- (3) 実績・経験 4点
- 有効性 (1) 設置目的の達成 4点
- (2) 利用者満足向上 4点
- 効率性 (3) 指定管理料及び収入 3点
- (4) 収支計画の妥当性及び実現可能性 3点
- 適正性 (5) 管理運営体制 4点
- (6) 平等利用等 3点
- (7) 社会貢献・地域貢献 3点

8 検討会としての総合的な所見について

- (座 長) 検討会としての評価レベルから算出した得点は110点満点中79点となり、市内団体に対する優遇措置の5点を加え、合計得点は84点となった。

「管理運営に対する理念、基本方針」、「人的基盤、財政基盤」、「収支計画」、「平等利用、安全対策、危機管理体制」など、指定管理者に最低限求められる条件は十分満たしており、且つ、総合的に見ても市の要求水準を上回っていると判断できることから、本検討会として、「一般社団法人北九州エコタウンネットワーク」を北九州エコタウンセンターの指定管理者候補として、市へ報告をしたいと思うがよろしいか。

- (全構成員) 異議なし。

- 検討会の審査結果として、今回応募のあった1団体は次期指定管理者の候補に相応しいと結論。市に報告し、検討会を終了した。